

NetApp BlueXP



ハイブリッド マルチクラウドのデータ資産全体を、 一元的なコントロール プレーンで構築、防御、統制

進化したクラウドを実現し、環境の複雑さに伴うさまざまな問題を解決することは、今後の企業にとって非常に重要です。基盤となる各種テクノロジーを適切に組み合わせ、オンプレミス環境と各種パブリック クラウドをカバーすることで、一元的な自動化、セキュリティ、データ管理が可能になります。

現在のハイブリッド マルチクラウドが抱える難題

今や企業のほとんどは複数のクラウドを利用しています。Gartnerの最近の調査結果「Cloud End-User Buying Behavior Survey」によると、マルチクラウド インフラの採用率は76%です。しかし現実には、こうしたマルチ クラウドを成り行きで採り入れている企業も少なくありません。クラウドについての意思決定を事業部レベルで行ったり、いわゆる「シャドウIT」でクラウドを導入したり、異なるクラウド プロバイダを利用していた企業同士が経営統合したりといった経緯で生じたマルチクラウドです。

ご承知のとおり、クラウドでワークロードを運用するうえで、ストレージは特に大きなコスト要因の1つです。金銭的なコストという面でも、継続的な管理とセキュリティに要する時間や労力という面でも、そのコストと複雑さは、クラウドの採用を成功へと導くうえで高い壁となっていました。しかし、ハイブリッド マルチクラウドに伴うコストと複雑さの問題を解決しようとした企業は、長い目で見ればその努力に見合った結果を残しています。IDCの最近の調査結果によると、マルチクラウドを採り入れた組織は市場投入のスピードが6.3倍速く、競合他社より大きな成果を上げています。

現在の企業各社は、オンプレミスとクラウドのリポジトリを複雑に併用し、ビジネス データの移動や保存を行っています。そして、さまざまな場所のリポジトリがスムーズに連動していないことが、データを効果的に活用するうえで妨げとなっています。IT運用チームやクラウド運用チーム、DevOps、SecOps、FinOpsなどの各チームが、データの活用やイノベーションの促進といった課題に取り組みつつ、ストレージ コストの拡大を抑えるためには、今のままの環境では無理があります。

またハイブリッド マルチクラウドの管理では、管理インターフェイスが必然的に複雑になります。この問題も簡単には解決できません。運用チームは複数のプラットフォーム サービスのそれぞれで別々のUIを使うことになり、カスタマー エクスペリエンスは低下します。付加価値の高いデータ サービスを連動させて利用する手段がないことが複雑さにつながり、リソースの無駄が生じます。シングル サインオンのないハイブリッド マルチクラウドはアクセスや管理も厄介です。すべての環境の防御や監視を一貫して行うのは難しく、そもそも不可能な場合もあります。製品や投資先が多岐にわたるとなると、ライセンスや料金体系は複雑で管理が難しく、投資保護がおろそかになりかねません。

こうした課題に対処する製品としてネットアップから登場したのがBlueXPです。



NetApp® BlueXP™が登場

BlueXPでは、業界をリードするアプローチを採り入れて、ハイブリッドマルチクラウドを一元的に管理できます。種類が異なる複数の環境を対象として、データの格納や保護を行うためのさまざまな機能を統合しており、個別のフレームワーク、ツールセット、専門的技能が必要ありません。わかりやすい共通のUIに、AIOps、機械学習、ポリシーベースの自動化を取りまとめています。複雑な環境の管理に必要なスキルセットを減らし、コストとリスクの両方を抑制します。これまで別々だった環境に対し、真の意味でグローバルな可視化と統制を取り入れ、一貫した運用ポリシーと制御を適用できます。

BlueXPは、ストレージとデータの管理を一元化する統合コントロール プレーンです。企業のデータ資産全体をカバーし、大規模な自動化をスピーディに実現するAPIを備えています。SaaSとして利用でき、ストレージとデータ サービスの検出、導入、管理、最適化すべてを1カ所で扱えます。管理の共通化を通じてハイブリッド マルチクラウド環境の複雑さを解消でき、技術的なニーズとビジネス要件の両方を満たせます。また、非常に強力なサイバー セキュリティとデータ保護の機能を備えています。

BlueXPは、一元的なアプローチでストレージやデータ管理を扱うことができ、効率性や柔軟性を最大限に引き出して、リスクを抑えられます。進化した高度なクラウドのオーケストレーションを支える存在です。

ハイブリッド マルチクラウド環境全体を統合

BlueXPは、共通のポリシー、手順、プロセス、フレームワーク、ツールセットを採り入れてマルチクラウド管理の戦略を強化したいと考えている企業向けに、ストレージとデータ サービスのコンソールをSaaS型で提供します。共通の統合コントロール プレーンのセットアップに必要な時間は数分のみです。SaaSの特長を生かして、継続的な機能

強化や改良、セキュリティ更新をただちに適用できます。管理作業の負担が減る分、チームはイノベーションに力を入れられます。

WebベースのUIはわかりやすく、すぐに使いこなせます。初めてのログインから数分後には、種類が異なる複数の環境を自在に制御し、最新のデータ保護、データ最適化、データ ガバナンス、セキュリティを導入できます。このUIを通じて、各種のリソースに完全にアクセスし、ストレージのプロビジョニング、オペラビリティ、サイバー レジリエンス、データのガバナンスとモビリティ、FinOps機能に対し、共通のフレームワークで対応できます。AIOpsを基盤とする正常性監視やステータス監視では、インフラやワークロードの課題に対する基本的なアラートにとどまらず、プロアクティブなガイダンスが得られ、業務の遂行に影響が生じる前に策を講じることが可能です。

統合されたテナンシー モデルとRBAC

BlueXPでは、強力なテナンシー モデルとカスタマイズ可能なRBAC（ロールベース アクセス制御）を利用して、アクセスを認めるユーザや、実行を認める操作を制御できます。新しいテナンシー モデルはきめ細かさや柔軟性を兼ね備え、組織から役割まで、多種多様なサブテナンシーを適用できます。このモデルにより、テナンシーの構成、オンボーディング、管理を強化できます。RBAC機能も強力です。多種多様なリソースに対して権限をきめ細かく設定でき、必要に応じてカスタム ロールの作成もできます。さまざまな関係や統合を通じて、BlueXPのサービスを一元的に設定でき、モダンなRBACの構造を活用できます。

単なる接続にとどまらないAPI

BlueXPのAPIと自動化のレイヤは、ネットアップ環境だけでなく、サンドボックスへの適切な対応という点で意味を持ちます。APIはモダンなアプリケーション アーキテクチャの土台を支える存在です。BlueXPが備えているAPIは、自動化、複数の環境向けの開発、関係、エコシステムをサポートしています。

バックエンドの柱となるのがBlueXPの強力なAPIです。ほとんどの企業は既存のインフラを完全に破棄するわけではありません。BlueXPのAPIでは、ネットアップ環境のほか、ネットアップ以外の多種多様な作業環境、フレームワーク、ツールセットも含めて、本当の意味でグローバルな可視化を実現できます。このバックボーンのもとで、共通のサービス、ポリシー、手順、統合管理が可能です。

BlueXPなら、各社に合ったやり方でビジネスを進められます。

接続を保護

セキュリティを懸念する場合、BlueXPは外部との接続が一切ないダーク サイトでも稼働できます。APIの詳細を仮想ネットワーク（VNet）や仮想プライベート クラウド（VPC）の内部にとどめ、外部からのアクセスをなくすことで、クレデンシャルや機密性が高いサブスクリプションの安全性を維持できます。お客様がセキュリティ対策に万全の態勢で臨めるよう、ネットアップも環境の認証を済ませています。BlueXPはSOC 2 Type 2の認証を取得しており、Trust Services規準の該当する要件に適合していることが監査で確認済みです。

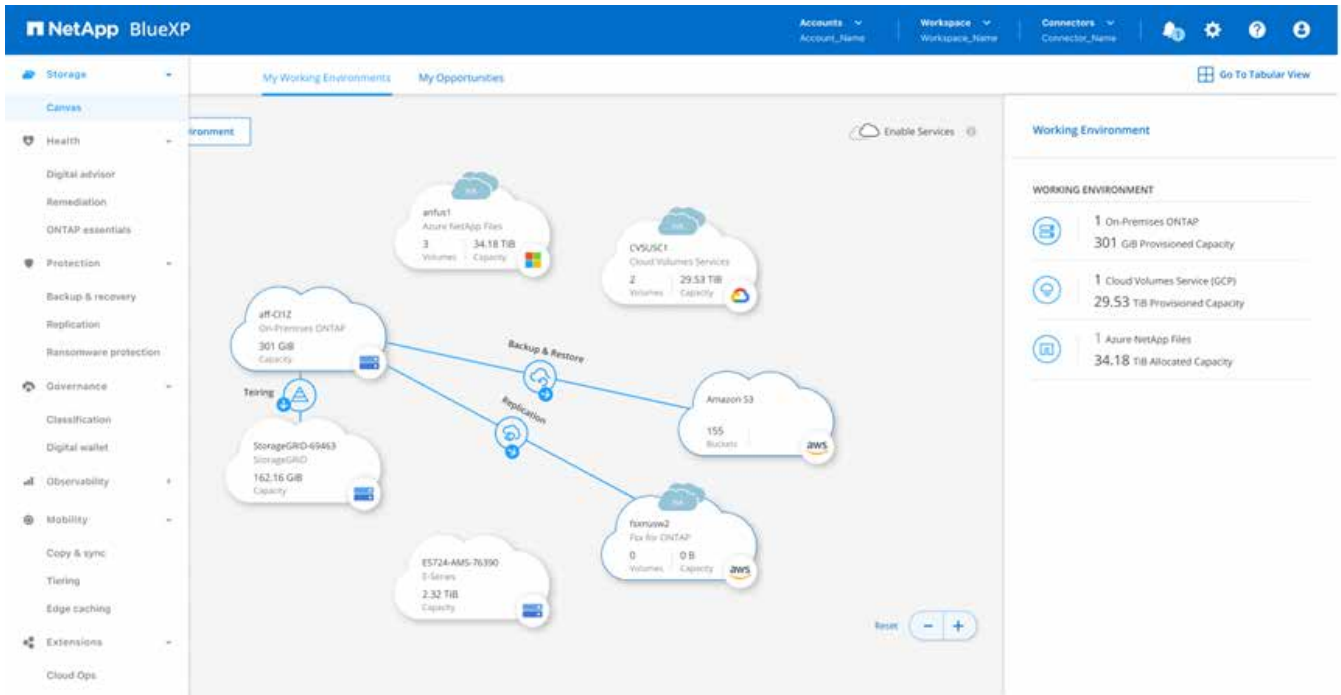
データとインフラの両方を継続的に保護

他社が提供する環境はアプリケーション主体のものが多く、バックアップ、リカバリ、セキュリティを個別に扱っていますが、ネットアップのBlueXPはそうではありません。ゼロトラストに対応する機能を備え、サイバー セキュリティを徹底的に確立しています。データ保護はBlueXPのDNAに組み込まれています。BlueXPの設計はデータ主体です。あらゆるデータ ソースのデータをマッピングしてセキュリティを確保し、有害なイベントによる破損や損失からデータを保護します。BlueXPの分類エンジンは、機密度やリスク プロファイルに従ってデータにタグ付けを行い、必要に応じて適切な修正策や予防措置を導入できます。ガバナンス情報を踏まえて、適切な権限とアクセス制御を確保します。統合型のAIOpsからは、潜在的な異常やランサムウェアの脅威についての通知が得られます。

BlueXPは、サイバー レジリエンスを実現する機能として、差分のみの継続的なブロックレベルのバックアップ機能や、レプリケーションとミラーリング、データ同期エンジンを備えています。後付けではなくBlueXP自体に組み込まれているデータ保護ですので、インフラのパフォーマンスに影響を及ぼす心配はありません。企業がさまざまな場所に保存している情報は完全に保護され、万全のセキュリティのもとで常に適切に利用できます。

投資の管理がもたらす価値

BlueXPなら、テクノロジーとビジネス目標の足並みをそろえ、共通の認識を確立できます。急速に変化するビジネス ニーズへの迅速な対応を実現し、予算の見直しにかかる負担を軽減します。BlueXPのデジタル ウォレット機能を通じたオンデマンドのプロビジョニングにより、必要になった資産をどこからでもただちに導入して、技術的なニーズとビジネスやFinOpsの要件を融合できます。デジタル ウォレット



では、FinOpsの財務の動的な変化に対応し、ライセンスや使用権の管理、マーケットプレイスのサブスクリプションの管理、利用率の監視、投資の保護を実現できます。こうした消費量ベースのモデルを通じて、資産にかかるコストと価値のバランスを取ることができます。この結果、資産のライフサイクル全体を通して継続的なインフラ利用率が高まり、全体のROIが向上します。

BlueXPのデジタル ウォレットでは、ライセンスや使用権を別の製品に切り替えるのも簡単です。つまり、不要になった使用権の対象を別のサービスに変えたり、別の環境に再割り当てしたりできます。Keystoneの同じサブスクリプション内でストレージのコミットメントをONTAPからCloud Volumes ONTAP (CVO) に再割り当てすることや、CVOの課金の方法を変更することも可能です。

チーム メンバーは役割に応じてデジタル ウォレットにアクセスします。ストレージやデータ サービスを直接調達した場合も、各種クラウドのマーケットプレイスから取得した場合も、多種多様なサービスのプライベート ライセンスのリポジトリを取得元に関係なく制御できます。この機能を通じて、チームは必要なサービスにすばやくアクセスできます。またFinOpsチームは、環境全体に対するコスト管理、支出の把握、投資の最適化を簡単に行えます。

「ネットアップのテクノロジーを利用することで、プラットフォームに依存せずにデータを扱えるようになり、ハイブリッド マルチクラウドのアプローチを強化できました。ネットアップ チームの協力のもと、データ戦略を策定したことは大成功でした」

AstraZeneca グローバル インフラ サービス ディレクター
Scott Hunter氏

環境問題への配慮

今やサステナビリティはあらゆる企業にとって最重要課題の1つです。データの増加に伴うエネルギー消費も増えており、2030年には世界全体のエネルギー利用の8%に及ぶとされています。これは世界にとって重要な課題です。サステナビリティは現在の社会と未来の世代に向けて我々に課された責務だとネットアップは考えています。ネットアップのアプローチには2つの面があります。1つは、当社自身の温室効果ガス排出量を削減するために、大胆かつ積極的な姿勢で臨むこと。もう1つは、当社のポートフォリオやプロセスを通じてイノベーションを推進し、お客様が同じような姿勢で取り組めるようにすることです。

ネットアップは、データの増加に伴うエネルギー消費が環境に及ぼす影響を抑えるために、3つの分野で取り組みを進めています。

1つ目は、温室効果ガスの排出削減に向けた、意欲的で良識ある目標の設定です。ネットアップの直接的な炭素排出量と、ネットアップが購入して利用する電力に伴う間接的な排出量の両方について、気候科学の知見に沿った目標を定めました。この目標は11月末に公開するレポート「2022 ESG Report」に記載する予定です。

2つ目は、お客様が利用するネットアップ ソリューションのカーボン フットプリントに関する取り組みです。製品のライフサイクル全体での炭素排出量（LCA : Life Cycle Assessment）をPAIA（Product Attribute to Impact Algorithm）ツールで推計できるようにします。詳細はまもなく明らかにする予定です。

3つ目は、当社のサステナビリティの取り組みに関する継続的な追跡と報告です。ネットアップは今年、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）をデータに基づいて査定する世界的な評価機関EcoVadisから「ゴールド」の評価を獲得しました。昨年の「シルバー」からランクを上げ、EcoVadisが査定した企業全体のうちで上位7%に入りました。つまり、ネットアップが開示している取り組みや活動が外部機関からもお墨付きを得て、お客様に実証データとしてご提示できるようになったのです。

ネットアップは、お客様と力を合わせて、世界をよりよい場所にしていきます。

シンプルさ、セキュリティ、コスト削減、サステナビリティを 思いのままに

ネットアップは進化したクラウドを実現します。NetApp BlueXPの統合コントロール プレーンは、オンプレミスとハイパースケーラのクラウド環境すべてをカバーして、ハイブリッド マルチクラウドのストレージやデータ サービスへの対応をシンプルに実現できます。ネットアップの環

境もそれ以外の環境も、お客様のデータ資産の全体をこれまでにないレベルで可視化します。インフラやデータだけでなく、その支えとなるビジネス プロセスも含めて、導入、検出、管理、最適化を行うことができます。これらすべてを共通のフレームワークで実現し、共通のサービスと機能で対応できます

環境全体に対する万全のオーケストレーションで、進化したクラウドを実現するのが、NetApp BlueXPです。

i Gartner, ID G00750997（2021年8月）

ii Seagate, IDC, 「Multicloud Maturity Report」（2022年6月）[LINK]

ネットアップについて

ジェネラリストが多い世界で、ネットアップはスペシャリストとしての存在感を示しています。お客様がデータを最大限に活用できるようにすることを1つの目標として、支援に全力を注いでいます。ネットアップは、信頼できるエンタープライズクラスのデータ サービスをクラウドにもたらし、またクラウドのシンプルな柔軟性をデータセンターにもたらし、業界をリードするネットアップのソリューションは、さまざまなお客様の環境や業界最大手のパブリック クラウドに対応します。

クラウド主導のData-Centricなソフトウェア企業であるネットアップは、お客様に最適なデータ ファブリックの構築をサポートし、クラウド対応をシンプルに実現し、必要なデータ、サービス、アプリケーションを適切なユーザにいつでも、どこからでもセキュアに提供できる唯一のベンダーです。www.netapp.com/ja/